

留学生の声



Finding Warmth In A Frigid Journey of College Kamila Marwa Hanifah(インドネシア)

農学研究科2年(塩野義人研究室)

When I received the news of acceptance into Yamagata University in 2020, I remembered that I was in the middle of finishing my Bachelor's Thesis and preparing for the defense. That moment left me feeling very happy and nervous at the same time, happy about the new opportunity in a country far away from home, and nervous about the future challenges that I would face. The wave of uneasiness increased along with rising COVID-19 cases, and my departure to Japan was delayed for 3 months. At that time, a lot of MEXT students from various universities in Japan experienced the same thing, there are even students who got delayed for 1 year and attended online classes from their home country. And finally, after months of uncertainty, my visa was issued in mid-November 2020, and I departed for Japan in early December. I started to imagine the first snow in Tsuruoka and how it felt in the palm of my hands.

The realization hits when I arrived and felt the piercing cold winds of winter on my face. To begin with, the first months of my Master's study were a real challenge. Trying to survive my first winter and trying to understand a new field of study, was the obstacle that I faced at that time. As time went by, and the weather gets warmer, new challenges emerged in the form of experiment failures and mistakes in the laboratory. I remembered the undeserving feeling and pessimistic thoughts that came into my mind at those moments. However, despite the coldness of the hardships, I found warmth in the encouragement and advice from my teacher, the presence of my friends, and the support from my family. I kept reminding myself that I need to make better progress and learned from mistakes, while also remembering that learning is a lifelong journey and perfect results are not what one can make. Keeping those words in my mind and knowing that a lot of people have my back, were the things that continued to keep me overcoming those obstacles and moving toward the finish line of my Master's study.

I learned and experienced precious knowledge in this journey of 2 years, I am grateful for them and will not take them for granted. I would also express my gratitude to a lot of people, especially my teacher, Prof. Shiono, and laboratory members of Natural Product Chemistry. I am also thankful to be surrounded by lovely and kind people during my Master's studies. Graduating from Yamagata University was not only a journey for me, but also for a lot of people who have supported me, as they have provided me with warmth in the frigid winter of hardships and a breeze in the scorching summer of challenges.

(訳)「極寒の地での就学という旅で、温もりを見つけた」

カミラ・マルワ・ハニファ

2020年に山形大学に入学するという知らせを受けたとき、私は学士論文の仕上げと審査準備の真っ最中で、あたることを思い出しました。その瞬間は、故郷から遠く離れた国での新たなチャンスに対する喜びと同時に、これからへの不安も感じていました。COVID-19の症例数の増加とともに、世の中の不安の波も大きくなり、日本への出発は3ヶ月遅れとなってしまいました。当時、日本の各大学の文部科学省留学生はみな同じような経験をしており、1年遅れて母国からオンライン授業に参加した学生もいるほどでした。そして、数ヶ月の不安の末、ようやく2020年11月中旬にビザが発給され、鶴岡の初雪と手のひらの感触を想像しながら12月上旬に日本へ出発しました。

到着して、突き刺すような冷たい冬の風を感じたとき、この地に来たことを実感しました。修士課程の最初の数ヶ月は、本当に大変でした。初めての冬を乗り切ること、そして新しい学問分野を理解すること、それが当時の私の障害でした。時間が経ち、暖かくなても、研究室での実験の失敗という形で、新たな課題が浮かび上がりました。自身への不甲斐なさで悲観的な考えが脳裏をよぎり、心が冷えきったことを覚えています。しかし、そんな中でも、先生からの励ましやアドバイス、友人の存在、家族の支えなど、温かさを感じることができました。私は、もっと進歩しなければならない、失敗から学ばなければならぬと自分に言い聞かせながら、同時に、「学習は生涯の旅であり、完璧な結果は人が作れるものではない」とことを忘れないようにしました。この言葉を胸に刻みながら、多くの人が私の背中を押してくれていることを知ったからこそ、私は多くの困難を乗り越え、修士課程修了に向けて前進し続けることができたのです。

この2年間の旅で、私は貴重な知識を学び、経験することができました。また、多くの人々、特に恩師である塩野先生や研究室のメンバーに深く感謝しています。修士課程では、素敵で優しい人たちに囲まれて過ごすことが出来たことにも感謝しています。山形大学での就学機会は、私を支えてくれた多くの人々によって、苦難の厳冬に暖かさを、挑戦の灼熱の夏に涼風を与えてもらった旅でもありました。

私は、専業園芸農家の長男として、家と親を守り、宮城の農業・園芸振興に寄与するため、自宅から通勤可能な宮城県本部)に勤務し、農協運動と事業に身を投じ、農と共に生き抜いた純粋な農協マンがありました。猫の目農政の真髓の間隙を縫つて、宮城の農業・園芸振興のため、系統機能發揮に大きく貢献できたものと自己微力をながら邁進することができ、農業者の所得維持・拡大に貢献できたものと自己微力をながら邁進することができ、農業者の所得維持・拡大に貢献できたものと自己



三浦秀光
(昭和48年農学科卒)
宮城県仙台市在住

満足しております。
また、鶴窓会会員及び現職の農学部教授他関係者皆様初め、農業技術及び農業経営・経済の発展にご尽力なされてきたことは否認めない事実であります。
しかしながら、日本農業は衰退の一途を辿り、農業を支えてきた農協組織も弱体化を余儀なくされてしまつたのです。なぜ、日本農業は現状に陥つてしまつたのか。農協組織に責任あるもの、大学及び我々関係者にもその責任はなかつたのか。あつたのではないかとのジレンマに陥る日々が現状を打破し今後に繋げる必要があると考えるのです。
私は、現役時代から農業振興も、農協組織力の強化をして参りました。いくら行政

及び農協職員が懸命に頑張つても、農政に牛耳られ、努力の結果が農業現場に反映しづらいからなのです。我々の卒業後の職種は、農業を中心とする第一次産業及び食品産業等農業に関連する職場が多い。特に、我々の卒業後の職種は、農業を始めとする第一次産業及び食品産業等農業に関連する職場が多い。特に、我々の卒業後の職種は、農業を始めとする第一次産業及び食品産業等農業に

関連する職場が多い。特に、我々の卒業後の職種は、農業を始めとする第一次産業及び食品産業等農業に関連する職場が多い。特に、我々の卒業後の職種は、農業を始めとする第一次産業及び食品産業等農業に関連する職場が多い。特に、我々の卒業後の職種は、農業を始めとする第一次産業及び食品産業等農業に

記事に対するご意見・ご感想をぜひお寄せください。
また、「私の意見」を募集いたします。掲載ご希望の方は、鶴窓会事務局までご連絡ください。

E-mail
kakusoukai1950@gmail.com

2022年7月9日執筆
本農業になってしまふことを憂慮するのです。

私は、専業園芸農家の長男として、家と親を守り、宮城の農業・園芸振興に寄与するため、自宅から通勤可能な宮城県本部)に勤務し、農協運動と事業に身を投じ、農と共に生き抜いた純粋な農協マンがありました。猫の目農政の真髓の間隙を縫つて、宮城の農業・園芸振興のため、系統機能發揮に大きく貢献できたものと自己微力をながら邁進することができ、農業者の所得維持・拡大に貢献できたものと自己

及び農協職員が懸命に頑張つても、農政に牛耳られ、努力の結果が農業現場に反映しづらいからなのです。我々の卒業後の職種は、農業を中心とする第一次産業及び食品産業等農業に

関連する職場が多い。特に、我々の卒業後の職種は、農業を始めとする第一次産業及び食品産業等農業に

関連する職場が多い。特に、我々の卒業後の職種は、農業を始めとする第一次産業及び食品産業等農業に

